首都圏
◇本　社◇
東京都千代田区
岩本町２-４-10
アイセ岩本町ビル
☎03(5833)8840
FAX03(5833)8841

〝ふれあい会〟が浸透

オブリック　太陽光発電　月例で知名度向上

オブリック（本社・富士宮市、篠原松太郎社長）は5、6の両日、富士宮市の本社で「太陽光発電ふれあい会」を開いた。消費者に対する太陽光発電の提案と「オブリック＝太陽光発電」のイメージ醸成を狙いに、昨年4月からエコ事業部を主体に毎月開いている。

来場者は各回、二十数世帯～1ケタと幅があるが、「たとえゼロでも開催する。会場の門戸を開いておくことが重要だ」（篠原社長）。継続的に開くことで、太陽光発電の取扱事業者としての存在を市場に浸透させることを最も重視する。

「市内のイオンでは京セラが常設ブースで太陽光をアピールするなど、ライバルの存在もあるが、日照条件に恵まれる地域特性から太陽光への関心も高い。従来からのシャープを中心に、全メーカーの製品に対応している。地域市場で知名度向上を高めることに腐心している」（同）。

継続は力。毎月開く「太陽光発電ふれあい会」

09年7月に太陽光発電システムを専門に扱うエコ事業部を立ち上げ、約1年半で18件の実績を上げた。既設戸建てを中心に新築まで幅広く対応、協力工事体制を築き、導入世帯による口コミ効果も広がっている。

今回のふれあい会では1月の検針票をベースに売電量を競う〝売電コンテスト〟も行い、入賞者に果物を贈呈した。次回は売電がピークになる5月検針で実施したい考えで、内容を充実させる。

「1件もクレームがなく、紹介先も増え始め、定着まであと一歩。成果を積み上げたい」（新林俊一エコ事業部長）と意欲的だ。

篠原社長は「顧客に対して間口を広く取る。そのために取扱商材を多様化する。太陽光で消費者が求めているのは信用。だからこそ地場で生きてきた当社の信用力が生きる」として、太陽光を軸にエコジョーズ、エコウィル、エネファーム、エコキュートまで、顧客のニーズに合わせて柔軟に提案・販売する体制を強化していく方針だ。

業務中に人命救助　上尾消防から感謝状

上薗真太郎さん（サイサン）

サイサン社員の上薗真太郎（うえぞの・しんたろう）さんが業務中に人命救助し7日、上尾市消防本部から感謝状を贈られた＝**写真**。上薗さんは昨年4月入社で、現在は埼玉支店上尾営業所に勤務している。

1月17日、業務中に上尾市浅間台地内で道端に倒れている男性を発見し、すぐに消防署へ通報、救急車が到着するまで懸命に心肺蘇生法（CPR）を行った。男性は集中治療室に運ばれたが、2月初旬には家族から「一般病棟に移り、歩けるまで回復した」との連絡があったという。

上薗さんは学生時代にアルバイト先のスポーツジムで、就業前に必ずCPR訓練を行っていたといい、その経験が尊い人命救助につながった。7日に上尾市消防本部で行われた表彰式で、上薗さんは平成22年度上尾市消防協力者として、栗原実消防長から感謝状を授与された。

テーマ　素一　成田空港に開設

ＨｙＳＵＴ社会実証3ヵ所目

テープカットする関係者ら

エネルギー企業や自動車メーカーが加盟し、水素供給ビジネスの検証を進める水素供給・利用技術研究組合（ＨｙＳＵＴ、吉田正寛理事長）はこのほど、成田市の成田国際空港内にＨｙＳＵＴとしては3カ所目となる水素ステーションを竣工し、8日に開所式を行った。吉田理事長は開所式で「水素エネルギーは環境に優しいエネルギー」と強調し、ＨｙＳＵＴの実証試験が広がりを見せていることなどを念頭に「（水素エネルギーは）新たなステージを迎えつつある」と語った。

水素ステーションの整備は、ＨｙＳＵＴが経済産業省の支援を得て実施する「水素ハイウェイプロジェクト」の一環。同プロジェクトでは、既に羽田と東京・杉並に水素ステーションが完成している。

成田水素ステーションの建設・運用は出光興産が実施する。同社の松本佳久常務は開所式で「国際空港がある成田から、この先進的な取り組みを世界に発信していきたい」「水素を安全第一に供給する」などと語った。

来賓の縄田俊之・経済省燃料電池推進室課長補佐は「水素はさまざまな原料から生産でき、エネルギーセキュリティーに優れる。もちろん環境対応もできるエネルギー。国としても必要な役割をしっかりと果たしていきたい」と語り、インフラ整備に必要な規制緩和に取り組む姿勢を見せた。

レモンガス　フジ広告優秀賞に

レモンガス（本社・平塚市、赤津欣弥社長）が第40回フジサンケイグループ広告大賞のイベント部門優秀賞に輝いた。授賞式は9日、東京・港区のグランドプリンスホテル新高輪で行われ、赤津社長に賞状と賞金50万円が贈られた。

受賞対象はレモンガスがアクアクラブと共同で特別協賛した「欽ちゃん監督勇退チャリティーマッチ　欽ちゃん・松坂大輔のドンとやるの！」（ニッポン放送主催）。

総合性、大衆性、創造性の3点を主眼に審査され、上場企業が居並ぶなか、レモンガスと、松坂大輔選手（レッドソックス）率いるサムライが対戦。9回表裏の激しい攻防の結果、15対12でGGが勝利し、欽ちゃんの監督勇退に華を添えた。

受賞者の観客を集め、萩本欽一さん率いる茨城ゴールデンゴールズ（GG）

総括　ＬＰガス国際セミナー〈下〉

09～13年需要　アジア中心に1000万トン増

家庭用市場　価格が重要ポイント

米国パーヴィン&ガーツ社のケン・オットー上席副社長は、基調講演で「需要量の増加は引き続きアジアが牽引役となり、2009年からの5年間に1千万トン増加する」との見通しを示した。オットー氏は、発展途上国の家庭用市場の伸長を予測したが、「価格が非常に重要なポイントとなる」と指摘。一部の消費国からは、ガス利用に対する補助金が消費の伸びを支えている現状が報告された。

オットー氏によると、世界で最も大きいLPガス市場であるアジアの2010年需要量は7800万トンで、家庭市場の伸びに牽引されている。今後の伸びは価格が左右するとの見通しを示し、「助成制度が充実しているところも、国家的な政策が長期に続くかどうか疑問もある」とも語った。

インド国営石油のジャヤデヴァン・プティエダット氏の報告によると、世界第2位の市場規模を誇る同国では「補助金は段階的に減らし」（SKガス社のタエヒュン・クウォン氏）だ。90年代後半から税制優遇の恩恵を受け、オートガス向けブタンの需要が急増。2000年代に入ると対ナフサの競争力が強まり、石油化学用需要が増加した。

今後期待できる分野は、LNGっているが、依然9割程度の市場で支給されている」。人口の7割を占める農村部への普及が課題で、政府はガス器具の無料提供などの助成措置を今後も継続させるという。

自動車用が約半分を占める韓国では「今後も増加傾向が続く見通し」（SKガス社のタエヒュン・クウォン氏）と石化用に加増熱用（12年まで）と石化用に加え、長期的には北朝鮮向けも挙げられる。一方でクウォン氏は、業界の脅威として、都市ガスの拡張やクリーンディーゼル、DME、CNGなどの自動車代替燃料、税制改正の動向などを挙げた。

中国・C1エネルギー社のリャオ・ナ氏によると、同国の2010年需要量は前年比104%で微増となったものの、経済成長率や原油生産量に比べ伸び率は低かった。今後5年間もそうした傾向が続く見通しだ。これに対し天然ガスの消費量は、政府の推進策や価格優位性を背景に、過去5年間で倍増。天然ガスの統制価格がLPガス価格を下回り、天然ガスへの転換も進んでいるという。

一方、製油所の新設が05年以降急速に進み、1200万㌧規模に達した。新規で400万㌧規模の11プロジェクトが予定されている。製油所からのLPガス生産増が見込まれる一方、輸入は減少する見通しだ。

世界のLPガス需要を牽引する分野として、オットー氏は化学原料用にも注目した。中東を中心に大きな伸びを予想し、その速度もかなり速いという。

消費国として供給価格の安定化を強く訴えたのは日本だった。古薗雅英・日本LPガス協会会長は輸入価格の乱高下がLPガスへの燃料転換のネックになっていることを指摘。CP（通告価格）制をとるサウジアラムコに対し「価格設定次第で需要が左右される傾向にあるため、価格決定要素の透明性が極めて重要」と対応を求めた。

日本の聴講者からも同様の声が上がったが、サウジ側は逆に「価格構成の観点から、（日本は）他国の市場と比べて小売段階の占める割合が高くなっている」と切り返す場面もあった。

組織改革と人事

ニチガス

〔組織〕営業本部に南関東支店を新設し、4支店制とする。併せて南関東支店第1、南関東支店第2部、開発部を新設し、▽管理本部法務部を法務課に昇格＝4月1日

〔人事〕〔営業本部〕▽東支店長（西関東支店長）▽常務荒木太（西関東支店長）▽同（西関東支店長）▽佐藤一郎（西関東支店開発部長）▽南関東支店第3支店長（西関東支店開発部長）▽執行役員（第2部長）▽鈴木宏治（第1部長）▽北関東支店（第2部長）▽開発部長（第1部長）▽鬼塚浩二（第2部長）▽神康弘（第1部長）▽蓼沼明（西関東支店第1部長）▽南関東支店長（第2部長）▽川下英司（第1部長）▽同（西関東支店開発部長）▽早川博（東関東支店求人部長）▽岩田（人事）▽八戸（管理部長）▽吉田明弘（兼財務課長）▽山形改革室長▽山本食料課長（兼法人営業課長）▽石井剛酒田（兼ホール管理課長）▽鈴木智（食料営業課長）▽福島（阿部）▽鈴木（酒田）▽宮城（兼法人営業課長）▽小竹英明▽宮平（宮城）▽兼宮古支店長▽宮城（兼食料課長）▽宮城（兼法人営業課長）▽宮城（兼法人営業課長）▽宮城（兼法人営業